

					なく、本人はまるで問題と 思っていない。病院の診断では、老 人性精神病と思われるとのこ と。脳のCT検査は異常なし。5 月末になり、精神状態が安定し てきたため、在宅サービスを整 えて、6月4日に家にもどる。(介 護保険要介護1) 将来的には、 夫のいる特養に入所になると思 われるが、在宅にいるうちは、 ヘルパー、デイサービス、ショ ートステイ、給食サービス等の 在宅サービスでフォローしてい かなければならない。	用することについて、 本人、夫とも基本的に は同意している。(本 人の理解力はあるが、 夫については、それ以 上のことを理解して もらうのは難しい)・ 福祉サービスの利用 援助・日常的金銭管理 サービス・介護、福祉 サービスの利用手続 き、支払い代行(給食 サービス、介護保険、 福祉機器貸与)医療費 の支払い、通知類(各 種支払い通知等)の確 認、手続き代行・年金 の受領に必要な、現況 届の提出・書類等の預 かりサービス、銀行通 帳(定期)、郵便局預 金証書の保管※本人 名義、夫名義約1200 万円、印鑑登録証、印 鑑の保管	
104	振興局	70代	男性	要介護1	生活保護受給者。同居人と2人 暮らしだが、金銭管理が出来ず、 たびたび無銭飲食を繰り返した ため、事業の活用について生活 保護実施機関(振興局)より相 談を受けた。	町社会福祉協議会へ 連絡。基幹社協である 市社会福祉協議会の 職員と共に本人宅を 訪問し、事業内容等の 補足説明を行った。	町職員と同行し本 人宅を訪問。公共 料金の支払いや生 活保護費の管理を 行うことについて 本人へ説明。その 後2回程訪問し、 十分に事業の内容 説明を行った上で 契約を締結し、事 業開始した。
105	調査者自 身	70代	女性	要介護2	Aさんは長男(独身)と二人暮ら し。長男は日雇労働者で毎日仕 事があるわけではない。遠方の 工事現場で働くこともあり、し ばらく不在のことも。生活は主 にAさんの年金収入でやってい るが困窮の生活、この状況の中、 長男はAさんの年金を賭けごと に使い、介護保険サービス利用 料の支払いも滞る始末。家族は 他に町内に二男夫婦が住んでい	※サービス事業者の 不正請求が判明した ことにより、上記のケ ースを知ることにな った。このようなケー スは地域福祉権利擁 護事業の対象になる のか、基幹的社会福祉 協議会主催の地域福 祉権利擁護事業説明 会の席で照会する。	Aさん本人に判断 能力があり、長男 の賭けごとによる 使いこみの件をこ ちらから話して も、Aさんにプラ イドがあり、そう いった事実はない と否定する。Aさ んに判断能力があ ることや長男、二

					る。しかし彼らの生活状態もよくないらしく、Aさんの家の冷蔵庫の中のものまで持っていく。		男がいるということから、しばらく様子を見ることになる。
106	他課	80代	女性	認定なし	実の娘は県外におり、(夫とは若い頃離婚)、現在一人暮らし。町の食生活改善推進員をするなど町の事業には積極的に参加していた。しかし、ここ数年時間をまちがって来庁したり、場所がわからなくなったり、米を洗ったのを忘れてたりなど少しずつ症状がみられ始めていた。今年になって訪問販売のトラブルや病院の方からの相談のTELがあり、現状での生活はムリではないかというので、権利擁護事業をあつかっている社協の在介に紹介する。	他課や病院よりケースの痴呆症状について連絡がある。一人暮らし。病院受診の管理、金銭の管理等について問題あり。社協中にある在介の相談員に紹介する。	在介の相談員が相談約になり、地域福祉権利擁護事業の説明をし、契約の運びとなる。預貯金の管理、公共料金支払の代行等を行うこととなる。
107	市自ら	80代	女性	要介護2	結婚してから当市に住み、15年前に夫死亡してから1人暮らしとなった。子供もなく兄姉との付き合いも少なく10年前からヘルパーの援助や近隣の知人が世話していた。3年前より物忘れが出てきて介護保険と同時に知人が金銭管理を支援していた。近所の人に財産をあげるといい、お金をたくさんあげたりして親戚を近づけなくなったことから親戚が心配していた。この事業を説明したらすぐに喜んで応じた。	親族の四等親を探し、十分に説明(親族)し、主旨を理解してもらう。	現在進行中である。

### 11. 二者以上からの相談

事例No.	相談経路	年齢	性別	要介護度	経過	市区町村の対応	社協の対応
108	近隣の住民・知人 民生委員	60代	女性	要支援	結婚歴なく、昭和43年に同居の母親と死別してから独居。隣人よりうつ症状あり、もの忘れ、被害妄想あり、本人は常に不安を訴えていえる。平成12年7月介護認定を受けたがサービス利用に至らないため、制度導入の検討を行った。	介護保険班(保険年金課)より健康福祉課の基幹型在支(=基幹型社会福祉協議会に委託)に相談する。地域ケア会議で検討し、内諾を得る。本人への説明(何度も必要)	契約締結審議会で審議し、日常的金銭管理のみ限定して実施することとなった。
109	民生委員	70代	男性	要介護2	本人宅にヘルパーが訪問したところ、買物を依頼されたが所持	担当ケアマネジャーと社会福祉協議会職	最終的には社会福祉協議会の福祉サ

	介護サービス事業者)				金はほとんどなく食料品も買えない状態だった。また、数日後には電気・ガスも止められ、今日の食事にも事欠く状態になっていた。原因は息子がお金を使うために借金の取り立てまで来るようになっていた。お金の管理をどうすればできるようになるかという相談であった。	員に事情を説明し、対応を相談するとともに本人宅へ訪問してもらうよう依頼した。	サービス利用援助事業に通帳の管理を任せることになった。
110	民生委員 ケアマネジャー	80代	女性	要介護2	1998年より4年間、異母姉妹にあたる夫婦が本人と同居し、金銭管理も含め本人の世話をしていたが、本人の希望により夫婦は転居、本人は一人暮らしとなった。本人は金銭管理ができないこともあり、担当民生委員、担当ケアマネジャーより基幹的 社会福祉協議会へ相談が入った。	夫婦の転居前に担当ケアマネジャーと専門員が本人宅を訪問。夫婦と本人の関係が悪化している為、別々に話を聴く。本人は多額の財産がある為、成年後見制度は利用できるようになるまでは夫婦が管理をするということで契約し、生活費の払い戻しや支払い等の代行を行うこととなった。現在は市内に住む親族が財産管理をしている。	
111	民生委員 市社協	80代	男性	要支援	別居。娘とは音信なく連絡先もわからない。妹は高齢で(主)の援助はできない。夏に食欲低下し、受診が必要だが拒まれるため保健婦と民生委員が援助し入院へとつないだ。入院中の金銭管理で福祉サービス利用援助事業を利用する。	地区担当保健婦、民生委員、在宅介護支援センターでケアカンファレンス。金銭管理について市社協につなぐ。	福祉サービス利用援助事業を開始
112	本人 病院	80代	女性	要介護4	夫と死別後独居でしたが平成12年3月に心不全、呼吸不全で入院、9月に退院したものの記録がなくなつたので不安大 力低下が目立つようになり、また金銭に関する被害妄想的な言動がみられるようになった。「息子(別居)に金銭管理を」と病院がすすけたが激怒した。保健婦(ケアマネジャーを兼ねる)にしてほしい旨、希望があった。	とりあえず3ヶ月余りの入院で所持金が失くなったので不安大 きく、主治医同伴で外出させて郵便局からお金をおろさせた。町の社協には相談したが、当分、権利擁護事業を活用せず、本人の意向に沿うこととした。	記載なし
113	家族 親族	70代	女性	要介護1	慢性腎不全にて入院加療後、退院独居開始。数年前から痴呆発症により食材の二重買いなどが目立ってきたことと、県外に住んでいる娘婿の月2回の送金受領についても紛失するなど自己金銭管理が困難となり、ケアマネジャー、市福祉事務所から対応について相談が入った。	基幹的 社会福祉協議会専門員へ対応について相談する。	専門員の訪問調査から、娘婿と連絡を取りながら本人に事業内容を説明、契約締結、預貯金管理、公共料金支払代行を行う。

114	親族 民生委員	70代	女性	要介護1	民生委員からの相談内容について対応を検討するため、関係者・関係機関を招集して会議を行い、対応の役割分担を行った。その後に、訪問販売被害が発覚したため、消費生活センターへ相談し、契約解除に至った。この後に日常的な金銭管理について権利擁護事業に任せた。この際、新たな預金口座の開設や公共料金の口座引き落としなどの手続きを権利擁護契約前に済ましてほしいとの専門員要請に対応して完了させた。契約にも立ち会った。ケアマネジメント、訪問看護サービス契約は当該事務所で対応した。	全ての状況が整った後に契約し、預貯金の管理と定期的な現金持参、買物代金の支払を行っている。	
115	民生委員 在宅介護 支援センター	60代	男性	自立	以前から浪費ぐせのある。ともに軽度の知的障害者夫婦の所有する土地の売買代金が入金されてきたためその管理及び訪問販売トラブル等の防止も含めて対応してほしい旨民生委員経由で健康福祉課から相談が入った。	民生委員からの依頼の後、担当（最初は生活保護が受けたい本人の申請も有り）生活保護担当町職員と県職員が2度訪問保護対象とならないこととなり基幹的社会福祉協議会職員と町職員が同行して下記のとおりとなる。	民生委員経由で行政から相談を受け、専門員と町職員と同行し訪問、日常的な金銭管理及び福祉サービスの利用援助公共料金等の支払いの代行を行う契約を結び実施中
116	近隣の住民・知人 民生委員	70代	女性	要介護2	1～2年前より物忘れがはげしく通帳等の管理が出来なくなった。何か方法がないかと民生委員より相談があった。	民生委員からの相談により権利擁護事業で対応できると判断、基幹的社会福祉協議会へつないだ。	日常的な金銭管理及び通帳等の管理を行うようになった。
117	近隣の住民・知人 民生委員	80代	女性	要介護1	独身で福祉施設退職後独居。民生委員がかかわってきた。ADLが低下し、近医の入院等、大家が金銭管理してきたが総合病院の入院に際し、どう対応すればよいか相談が入った。	地区担当保健婦、民生委員、(主)が信頼している勤めていた施設の施設長とケアカンファレンス、老健入所につなぐ。	金銭管理について、市社協に依頼。福祉サービス利用援助事業を契約
118	近隣の住民・知人 民生委員	80代	女性	要介護2	独居。2～3年前より物忘れが徐々にあらわれていた。1年前入院中の娘が亡くなり、そのころより物忘れがひどくなってきた。通帳、印鑑を失くしたり、支払いができなくなったため近隣の知り合いやヘルパーが金銭管理の支援をしていた。銀行の貸金庫の鍵をなくし、権利証などの管理ができず、権利擁護へつなげることとなった。	地域福祉権利擁護事業が対応できないか、市社会福祉協議会に相談する。	行政より相談を受け、市職員同行のもと専門員が本人宅を訪問。日常的な金銭管理については本人が拒否のため、書類の預かりサービスのみ契約を行う。家の権利証書、年金証書の保管を行うこととなる。
119	本人 ケアマネ	70代	女性	要介護2	主(76)と娘(50)の2人世帯。主は物忘れがあり娘は知的障害者Aである。ケアマネと本人が	1. 訪問販売については消費者生活センターで相談するよう助	2. 主の物忘れが多いため、社協の権利擁護事業を紹

	ジャー				同伴して訪問販売により不用は物まで購入して困っており、なんとか対応ができないか相談。	言。ケアマネが付き添いを快く承諾してくれた。	介。社協に状況説明し、ケアマネと打ち合わせを依頼する。社協の調査後、権利擁護事業の適用となり、預貯金管理等の代行を行うようになった。
120	本人 家族 福祉センター	70代	女性	要介護2	以前より、訪問販売のトラブル等は、親族間で何とか解決していたようだが、療育B判定の長男の精神科入院に伴い独居となってしまう主から生保申請あり。生保の面接と合わせて、主の金銭管理に問題があると判断し、当町社協に相談する。(主は1,000円札より高額な札は理解できていない。痴呆ではなく、知的障害が以前より見られたよう。)	相談内容について、当町社協に相談し、地域福祉権利擁護事業での対応について市社協に相談してもらう。	当課職員同行のもと、専門員が自宅訪問。日常生活についての話を伺うとともに、事業説明。その後、3回程の自宅訪問を終え、契約は親族立会いのもと4回目の訪問時に行った。その際、生活支援員との顔合わせをし、預貯金の管理を行うこととなる。
121	本人 家族	不明	夫婦	夫は要支援、妻は要介護1	高齢者夫婦、妻介護1、夫要支援だが痴呆があるため本制度を利用。夫来庁につき相談員に連絡し、介護保険高額利用申請の手続き完了された。	権利擁護相談員が介護保険制度について訪問された翌日に夫が来庁されたので、書類不備面の為、担当相談員に連絡をとり、手続きをもらった。	記載なし
122	本人 在宅介護 支援センター ホームヘルパー 生保担当者	70代	女性	要介護1	独居でホームヘルプサービスを利用しているが歩行に支障をきたし金融機関、買物などが困難となった。生保担当者、ヘルパー、本人と協議し本事業申請となった。	担当者で協議し、事業該当と思われ基幹社協に相談した。	関係者、本人と面接、契約、利用となった。
123	本人 在宅介護 支援センター ホームヘルパー	70代	女性	要介護4	独居で介護保険サービスを活用していたが徐々に日常生活上の困難さが増え、日常的な金銭の支払いについて支障を来す様になり本事業を申請することとなった。	関係者と協議の上基幹社協に相談となった。	関係者に面接、契約利用となった。
124	本人 近隣の住民・知人	80代	女性	要介護1	本人一人暮らし。入院した時を機会に金銭的管理に問題が浮上。相談と同時に社協へつなげ	経過と同じ。	行政と専門員と本人宅を訪問し、本事業を説明し、利

					る。		用となる
125	親族 在宅介護 支援セン ター	60代	男性	自立	昭和60年11月妻死亡。本人療養手帳の交付（A判定）を受けている。今迄義姉がお世話をしていたが義姉も高齢（82歳）のためお世話することが体力的にも大変であるという申出から権利擁護事業を利用することとなった。現在は週2回ヘルパーとの買物（自分で日常生活の面では出来るが金銭管理のみ出来ない）月1回の権利擁護担当者支払処理等を利用している。	介護保険の認定には至らない。義姉からの相談により地域福祉生活保護センターへ相談、担当者訪問により対応につながった	担当者より町社協へ相談し事業の実施となった。契約内容説明、預金通帳、印鑑管理、買物等の支払を行なうこととなる。
126	本人 近隣の住 民・知人 民生委員	80代	女性	要介護1	入院・老人施設の生活が長く、自から考えて生活する気が薄れて来た。特に金銭面に対しては入院前のように管理しようとしなくなったため、地域の民生委員や福祉委員が金銭管理を支援して来た。権利擁護の制度を知って、民生委員より相談があった。	福祉課、介護保険課が受けた相談で権利擁護に関する内容であれば社会福祉協議会に連絡し対応する。	民生委員、福祉委員の同行のもとに専門員が訪問。日常的な金銭管理について事業内容を本人に説明し、契約を行う。本人が足が弱くなったため、台所と居間の段差をなくして欲しいと希望。動きやすい様に手すりの取り付けも考え、介護保険課と相談し、家の改造を図る。
127	近隣の住 民・知人 民生委員 デイサー ビス事業 所	70代	女性	要介護1	84歳の夫は、要介護3で痴呆が重要であり、施設入所は妻（79歳）が拒んでいる。1年前より軽度の痴呆になり、民生委員等から計画的な出納ができなく生活費の捻出が困難との情報があった。	ホームヘルパーやデイサービス事業所では、金銭問題のトラブルに関わる恐れがあり、これからの相続等の発生も考え、基幹的社協に相談する。	直ちに民生委員と連絡を取り、自宅訪問を行った。日常金銭管理を行う為の理解を得る為に3回程度訪問した。成年後見人も視野に入れ関わりを持っている。
128	民生委員 社会福祉 協議会	80代	女性	要支援	以前より一人暮らしをしながら社協でデイサービスを受けていたおり、転倒がもとで入院され、金銭等の管理が出来なくなり、ヘルパー、社協事務局長、民生委員、町とで話し合ったときに本事業の事務局の美作社協へ相談を入れ、本事業で対応する運びになった。	民生委員、町、社協とで相談した結果、本事業で対応できないか、基幹的社会福祉協議会に連絡する。	上記より相談を受け、専門員、社協事務局、町、民生委員が協議し、今後の金銭管理について事業内容を説明し、事務手続きをとる。

12. 相談経路が不明

事例No.	年齢	性別	要介護度	経過	市区町村の対応	社協の対応
129	60代	男性	自立	<p>独居で社会性にややおとる 63歳の男性が、昨年健康食品を 30 数万で売買契約をむすぶ。一部利用し返品したが、全額請求された。同氏は生活保護(医療扶助)をうけており返済能力がないため消費者生活センターに相談、文書作成の指導等を行い一部の負担で問題はおさまっている。</p>	<p>準じる事例はあったが民生委員、関係部局の職員と連携し、解決にあたった。今後、地域福祉権利擁護事業で対応すべき事例は増加すると思われるので、住民周知と体制の必要を感じる。</p>	<p>組織化、(体制の整備)されたのが1~2年前であり、また基幹的社協が隣町であるため実績がない。</p>
130	70代	女性	要支援	<p>市内で一人暮らしをしている。(生活保護世帯) 2~3 年前より物忘れがでてきた。今年の春頃から物を盗られた、お金がなくなったという訴えがでてくるようになり生活保護ワーカーより施設入所の相談が入る。施設(養護老人ホーム)入所の方向で話しすすめるのと同時に(入所までかなりの期間がかかることも見込まれるため)地域福祉権利擁護事業利用していくことになった。</p>	<p>生活保護ワーカーより、基幹的社会福祉協議会に相談する。</p>	<p>現在調整中であるが、金銭管理(日常的な)は本人はしたいという意志があるため、今後検討していくが、重要書類の預かりについては契約を近々結ぶ予定。</p>
131	80代	女性	要介護1	<p>当町にて出生、看護婦や付き添い婦として生計を立てていた。(独居・結婚歴あり) 70 歳頃から就労が難しくなり姉や姪から身の回り等の援助を受けていたが関係を悪化させ、交流が断たれている。2~3 年前より「お金を盗まれた」等の言動が目立つようになり、物忘れもひどく金銭や通帳、印鑑等の置き場所が分からなくなり担当のケアマネジャーにより社会福祉協議会へ相談、利用となる。(当課に直接相談があったものではない。)</p>	<p>記載なし</p>	<p>現在、本人の同意、依頼を得て下記について支援。生活費の払い戻し、タクシー代等の支払いの代行。通帳、届出印、介護保険被保険者の保管。</p>
132	不明	不明	不明	<p>記載なし</p>	<p>痴呆老人を抱える家族より相続問題について相談あり。社団法人成年後見センターリーガルサポート県支部の窓口である司法書士に相談した。</p>	<p>記載なし</p>

### 3.参考文献





3. 参考文献

no.	発行年	題名	著者	出典
1	2001	見直そう 利用者中心のケアマネジメント 介護者からの虐待が疑われる事例	岩佐美抄(神戸大学 保健), 福田治美, 田先雅代, 中山貴美子, 岡本玲子	訪問看護と介護 (1341-7045)6 巻9号 Page763-769 (2001.09)
2	2001	高齢者虐待の電話相談における活動と機能 5年間の実践の分析	小長谷百絵(東京医科歯科大学 医系研究), 中馬妙子, 富田真佐子, 谷口好美, 千葉由美, 高崎絹子	日本地域看護学会誌 3 巻 1号 Page182-186 (2001.03)
3	2001	介護ホリックと高齢者虐待	江口昌克(明海大学 外国語), 牧上久仁子	精神療法 (0916-8710)27 巻 3号 Page277-283 (2001.06)
4	2001	学童と介護施設に入所中の要介護高齢者との社会的交流集会に関連したアンケートのレビュー (英語)	MiyakeYasuhiro (Kokubunji-so Health Institution for Elderly), KawadaKumi, TodaniSeiji, IwaseTetsuya, ShibamotoHidehiro, TakedaNoriaki	学校保健研究 (0386-9598)42 巻 Suppl. Page98-101 (2001.06)
5	2001	【社会構造の変化と高齢者問題】 高齢者虐待と児童 児童虐待との比較及び児童による高齢者虐待	金子善彦(横浜市港南区保健所), 山田芳輝	精神医学 (0488-1281)43 巻6号 Page621-629 (2001.06)
6	2001	接近困難事例のケアマネジメント Q&A サービス利用に拒否的で虐待が疑われる介護者	岡本玲子(神戸大学 保健), 中山貴美子	トータルケアマネジメント 6 巻 1号 Page54-59 (2001.06)
7	2001	高齢者・障害者の地域ケアネットワークづくりに関する研究	柴原君江(調布学園短期大学), 内田健夫, 竹内文生, 菅野清, 柿沼矩子, 原田二三子, 遠藤慶子, 杉浦芳子	川崎市立看護短期大学紀要 (1342-1921) 6 巻 1号 Page15-21 (2001.03)
8	2001	【高齢者虐待への対応を学ぶ】 虐待事例にかかわって そこに起きている事実をみる	大越扶貴(日本社会事業大学 大学院)	訪問看護と介護 (1341-7045) 6 巻 5号 Page404-407 (2001.05)
9	2001	【高齢者虐待への対応を学ぶ】 高齢者虐待への連携 ケアマネジャー, 訪問看護婦, ホームヘルパーが連携しながら支えたケース	浦山節子(新川崎居宅介護支援事業所), 遠藤季枝子, 篠澤香	訪問看護と介護 (1341-7045)6 巻 5号 Page396-403 (2001.05)
10	2001	【高齢者虐待への対応を学ぶ】 専門職の虐待意識を調査して	臼井キミカ(大阪府立看護大学)	訪問看護と介護 (1341-7045)6 巻 5号 P

				age384-390(2001.05)
11	2001	【高齢者虐待への対応を学ぶ】 高齢者虐待はなぜ起こる?	萩原清子(関東学院大学 文)	訪問看護と介護 (1341-7045)6巻5号 Page376-383(2001.05)
12	2001	【高齢者虐待への対応を学ぶ】 介護保険下での高齢者虐待の早期発見と対応	津村智恵子(大阪府立看護大学)	訪問看護と介護 (1341-7045)6巻5号 Page370-375(2001.05)
13	2001	在宅痴呆性老人におけるケアニーズに関する追跡調査(第2報) 在宅継続群の虐待状況について	福原隆子(福井県立大学 看護短大), 山田ミチ子, 玉井顯, 川端啓之	福井県立大学看護短期大学部論集 (1340-3486)12~13号 Page1-11(2001.02)
14	2001	【今のままで良いか 日常診療でのコミュニケーション技法】 私の失敗体験/伝えたいコト	飯島克巳(いいじまクリニック), 佐々木将人, 斎藤清二, 早川浩, 富田和巳, 須貝佑一, 宮森正, 岡安大仁, 松村真司	JIM(0917-138X)11巻3号 Page250-253(2001.03)
15	2001	【中年の危機と精神療法】 との関係	両親 福山和女(ルーテル学院大学)	精神療法(0916-8710)27巻2号 Page141-147(2001.04)
16	2001	【痴呆性老人の人権擁護】 在宅介護におけるアビュース チームの支援を目的とした継続的事例検討の試み	伊藤淑子(北海学園大学 経済)	老年精神医学雑誌 (0915-6305)12巻2号 Page148-153(2001.02)
17	2001	高齢者の老人虐待に対する認識に関する研究	塚田典子(日本大学 グローバルビジネス研究), 斉藤安彦	地域保健(0385-2229) 32巻1号 Page60-67(2001.01)
18	2001	高齢者虐待への福祉的介入・援助の有効性と限界—愛知県下の在宅事例の現状を手がかりに—	加藤悦子	社会福祉学 Vo141(2)pp131-141
19	2001	老人虐待論	鈴木真理子	筒井書房
20	2000	老人虐待と支援に関する台湾と日本との比較研究 台北市と埼玉県玉島の調査から	何韋霖(), 高崎絹子, 千葉由美, 富田真佐子	日本在宅ケア学会誌 4巻1号 Page79-86(2000.12)
21	2000	【虐待をめぐる】 の現状と課題 高齢者虐待	家庭内暴力 荒木乳根子(調布学園短期大学)	母子保健情報 (0389-8997)42号 Page33-38(2000.12)
22	2000	在宅における老人虐待事例の援助の分析 援助過程の質, および援助結果に影響を与える要因の検討	小林亜由美(群馬大学 保健), 高崎絹子, 千葉由美, 佐々木明子, 小野ミツ	老年看護学 5巻1号 Page78-87(2000.11)

23	2000	【過敏性腸症候群】 過敏性腸症候群の psychosocial factor	武谷慎司(九州大学 心療内科), 安藤勝己, 久保千春, 美根和典	臨床消化器内科 (0911-601X) 15 巻 13 号 Page1713-1720(2000.11)
24	2000	医師に対する高齢者虐待に関するアンケート調査から	金子善彦(横浜市港南区保健所), 澤井博司, 立川功, 古賀伸子, 西本公子	老年精神医学雑誌 (0915-6305) 11 巻 8 号 Page899-911(2000.08)
25	2000	高齢者虐待に対する介護支援専門員(ケアマネジャー)の意識アンケート調査をもとに	橋本久子(九州看護福祉大学)	看護研究(0022-8370) 33 巻 4 号 Page343-350(2000.08)
26	2000	看護婦のストレス・精神的葛藤が原因となる高齢者への虐待 老人医療施設の実態調査に基づく計量分析	葛藤が 焼山和憲(西南女学院大学 保健福祉)	看護展望(0385-549X) 25 巻 9 号 Page1059-1063(2000.08)
27	2000	【性暴力と DV 加害者治療の可能性を探る】 ドメスティック・バイオレンス加害者治療の試み 「男の非暴力グループワーク」の経験から	中村正(立命館大学)	アディクションと家族 (1344-4743) 17 巻 3 号 Page280-286(2000.09)
28	2000	老人施設の不正・介護放棄を「告発」する意味 なぜ私は声をあげるのか?	藤田良子(介護現場よろず相談室 Asil)	看護学雑誌 (0386-9830) 64 巻 9 号 Page844-849(2000.09)
29	2000	在宅要介護老人の虐待に関する実態調査 介護負担・社会的支援などとの関係から	坂本敦子(葵会訪問看護ステーション), 小畑智子	日本看護学会論文集 30 回 老人看護号 Page45-47(2000.03)
30	2000	【増加する子ども・成人・高齢者への虐待を考える】 高齢者に見られる虐待	田中荘司(東海大学 健康科)	心と社会(0023-2807) 99 号 Page44-49(2000.03)
31	2000	【増加する子ども・成人・高齢者への虐待を考える】 虐待の記憶 児童期性的虐待とサバイバー	斎藤学(家族機能研究所)	心と社会(0023-2807) 99 号 Page13-26(2000.03)
32	2000	【増加する子ども・成人・高齢者への虐待を考える】 子ども虐待について	宮本信也(筑波大学 心身障害)	心と社会(0023-2807) 99 号 Page31-35(2000.03)
33	2000	【臨床ナースのための症候別病態生理キーポイント】 外科・整形外科的症候 骨折	松崎交作(和歌山県立医科大学 整形外科)	臨床看護(0386-7722) 26 巻 6 号 Page1001-1004(2000.06)
34	2000	【増加する子ども・成人・高齢者への虐待を考える】 女性への暴力(ドメスティック・バイオレンス)の実態とその対応	菊地文子(全国婦人相談員連絡協議会)	心と社会(0023-2807) 99 号 Page36-43(2000.03)
35	2000	比較対照法による在宅高齢者虐待の類型別発生要因に関する研究	臼井キミカ(大阪府立看護大学 老年看護), 津村智恵子, 佐瀬美恵子, 黒田研二, 柴尾慶次, 池田直樹	大和証券ヘルス財団研究業績集 23 号 Page83-88(2000.02)

36	2000	在宅痴呆性老人におけるケアニーズに関する追跡調査(第1報)	福原隆子(福井県立大学 看護短大), 川端啓之, 玉井顯, 山田ミチ子	福井県立大学看護短期大学部論集(1340-3486)10~11号 Page1-14(2000. 02)
37	2000	【虐待】 家族介護者への支援のあり方	山本則子(東京大学 医系研究 家族看護), 杉下知子	保健の科学 (0018-3342)42 巻3号 Page201-206(2000. 03)
38	2000	【虐待】 高齢者虐待の現状と対策	谷口好美(富山医科薬科大学 看護)	保健の科学 (0018-3342)42 巻3号 Page181-186(2000. 03)
39	2000	【現代の家族と専門職のかかわり】 老人虐待に対する訪問看護婦の介入	松田美保子(ピース), 馬庭恭子	保健の科学 (0018-3342)42 巻2号 Page117-120(2000. 02)
40	2000	【虐待】 中高年のセルフケアとソーシャルサポート・ネットワーク	渡辺孟(聖カタリナ女子学園), 佐々木信也	保健の科学 (0018-3342)42 巻3号 Page187-191(2000. 03)
41	2000	施設内虐待	市川和彦	誠信書房
42	2000	在宅要介護高齢者の家族介護者における不適切処遇の実態とその背景	上田照子	日本公衆衛生誌 Vol. 47(3)P264-274
43	2000	患者の権利オンブズマン	特定非営利活動法人患者の権利オンブズマン	明石書店
44	2000	介護地獄	毎日新聞「長命社会」取材班	講談社
45	1999	栃木県における在宅要介護高齢者虐待に関する調査研究 専門職へのアンケート調査より	神山幸枝(自治医科大学看護短期大学 地域老人看護), 岸恵美子, 荒木美千子, 荒川真理子, 龔田祥恵, 工藤由紀, 松下由美子	自治医科大学看護短期大学紀要7巻 Page67-73(1999. 12)
46	1999	痴呆性高齢者の人権をめぐって 家庭内介護におけるアブユーズと高齢者の人権	伊藤淑子(北海学園大学 経済)	老年精神医学雑誌 (0915-6305)10 巻10号 Page1231-1235(1999. 10)
47	1999	【家庭内における暴力を臨床の中でどう扱うか】 高齢者虐待	福山和女(ルーテル学院大学)	家族療法研究 (0910-6022)16 巻2号 Page68-72(1999. 08)
48	1999	【在宅ケアの新段階】 高齢者虐待の現状と対策をめぐる諸課題について	中村雪江(青森大学 社会)	Nurse eye12 巻8号 Page38-45(1999. 08)
49	1999	フェミニスト・セラピー 女性たちの四季	高島克子(東京都精神医総研)	こころの看護学 (1343-0556)3 巻3号 Page253-256(1999. 09)

50	1999	地域における高齢者虐待の実態と予防に関する研究	安梅勅江(国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所), 鈴木英子, 原田亮子, 片山優子	地域保健(0385-2229)30巻6号 Page116-133(1999.07)
51	1999	ベッドサイドの心理的アセスメント 看護の視点から模索してよりよい関係をもつための発想 "老人虐待"からケアをめぐる家族関係を考えよう	川原礼子(弘前大学 医技短大看護), 中村留貴子	看護実践の科学(0385-4280)24巻8号 Page11-14(1999.07)
52	1999	ベッドサイドの心理的アセスメント 看護の視点から模索して事実とニュートラルに向き合う "老人虐待"からケアをめぐる家族関係を考えよう(3)	川原礼子(弘前大学 医技短大), 中村留貴子	看護実践の科学(0385-4280)24巻6号 Page11-14(1999.06)
53	1999	痴呆性老人における虐待の実態と発生要因に関する調査研究	福原隆子(福井県立大学 看護短大)	福井県立大学看護短期大学部 論集(1340-3486)9号 Page25-38(1999.02)
54	1999	老人虐待の防止と支援	高崎絹子(東京医科歯科大学 保健衛生), 佐々木明子	エキスパートナース(0911-0194)15巻2号 Page30-33(1999.02)
55	1999	高齢者虐待	いのうえせつこ	新評論
56	1999	わが国における一般市民の高齢者虐待に関する意識調査 調査研究報告書	田中荘司他	高齢者処遇研究会
57	1998	高齢者の権利擁護システム	新井誠・小笠原祐次・須永醇	勁草書房
58	1998	「老人虐待」の予防と支援	高崎絹子	日本看護協会出版会
59	1998	心的後遺症 高齢者虐待 虐待された高齢者の示す行動(症状)を中心に	荒木乳根子(調布学園短期大学 人間福祉)	こころの看護学(1343-0556)2巻2号 Page191-194(1998.06)
60	1998	看護・福祉系の基礎教育課程における高齢者虐待に関する授業展開の実態	奥野茂代(日本老年看護学会), 金川克子, 沼本教子, 南澤汎美	老年看護学3巻1号 Page105-111(1998.11)
61	1998	在宅高齢者虐待の事例研究	山口光治(長野社会福祉専門学校)	ソーシャルワーク研究(0385-3772)24巻2号 Page148-153(1998.07)
62	1998	介護保険制度と地域保健活動の課題 老人虐待の実態を通して地域保健の役割を考える	高崎絹子(東京医科歯科大学 保健衛生)	北海道公衆衛生学雑誌(0914-2630)11巻2号 Page117-122(1998.03)

63	1998	在宅要介護高齢者の虐待に関する調査研究	上田照子(関西医科大学 公衆衛), 水無瀬文子, 大塩まゆみ, 他	日本公衆衛生雑誌 (0546-1766)45 巻5 号 Page437-448(1998. 05)
64	1998	高齢者虐待の看護・介護職の認識に関する研究 家族介護に伴う虐待に焦点を当てて	福島道子(国際医療福祉大学 保健), 海老原光子, 馬場茂樹, 他	健康文化研究助成論文集 4 号 Page132-137(1998. 03)
65	1998	【地域におけるケアマネジメント】 公的介護保険制度とケアマネジメント ケアマネジャーの役割・機能と能力の育成	高崎絹子(東京医科歯科大学 保健衛生)	精神科看護 (0910-5794)67 号 Page40-46(1998. 03)
66	1998	老人虐待 米国からの報告 チームアプローチの必要性とその課題	江原勝幸(米国)	訪問看護と介護 (1341-7045)3 巻1 号 Page77-80(1998. 01)
67	1998	高齢者虐待 発見・予防のために	ピーター・デカルマー/フランク・グレンデニング	ミネルヴァ書房
68	1998	高齢者及び依存性の高い成人の虐待を取り扱うソーシャルワーカーの職務満足度に関する一考察—カリフォルニア州サンタクララ郡成人保護サービス機関に所属する虐待専門援助者の意識調査を通して—	江原勝幸	社会福祉学 Vol. 39(1)P244-259
69	1998	アメリカにおける高齢者虐待の現状と対策—制度的視点から— 龍谷大学大学院研究紀要	前田美也子	社会学・社会福祉学 79-101
70	1998	老人病院におけるいわゆるいじめの実態	池川公章	日本公衆衛生誌 Vol. 45(1)P56-62
71	1998	在宅高齢者虐待の対処と予防・早期発見への支援事業報告書	津村智恵子他	大阪老人虐待研究会
72	1998	「高齢者ケアにおける人権擁護に関する研究」報告書	大国美智子他	高齢者虐待防止研究会
73	1998	在宅・施設における高齢者及び障害者の虐待に関する意識と実態調査	田中荘司他	高齢者処遇研究会
74	1998	家族・暴力・虐待の構図	日本弁護士連合会	読売新聞社
75	1997	在宅要介護高齢者の介護負担と虐待(疑いを含む)に関する研究会	大阪シルバーハラスメント研究会	1995 年度朝日パイオニア助成金報告書 1997. 3

76	1997	老人虐待 米国からの報告 問題解決へのアプローチ	江原勝幸(米国)	訪問看護と介護 (1341-7045)2巻12号 Page881-886(1997.12)
77	1997	老人虐待 米国からの報告 虐待の実態と主な原因	江原勝幸(米国)	訪問看護と介護 (1341-7045)2巻11号 Page818-821(1997.11)
78	1997	【ケアマネジメント】 保健婦の役割 期待と課題 公的介護保険制度と保健婦(士)活動に期待するもの 保健医療福祉サービスと老人虐待の現状から考える	高崎絹子(東京医科歯科大学 保健衛生)	保健婦雑誌 (0047-1844)53巻12号 Page1010-1012(1997.11)
79	1997	老人虐待 米国からの報告 虐待の基本的知識	江原勝幸(米国)	訪問看護と介護 (1341-7045)2巻10号 Page740-743(1997.10)
80	1997	老人虐待 米国からの報告 医療・保健・福祉専門職者の責任と期待	江原勝幸(米国)	訪問看護と介護 (1341-7045)2巻9号 Page662-665(1997.09)
81	1997	介護福祉・児童福祉系学生のみみた老人虐待	近藤功行(旭川荘厚生専門学院)	旭川荘研究年報 (0913-4603)28巻1号 Page50-63(1997.03)
82	1997	老人虐待の1例とその精神医学的側面	市川一郎(成増厚生病院), 朝田隆, 村松玲美, 他	老年精神医学雑誌 (0915-6305)8巻6号 Page611-615(1997.06)
83	1997	高齢者を支える看護 老人看護の課題 老人虐待と家族看護を中心に	谷口好美(東京医科歯科大学 保健衛生), 高崎絹子	Gerontology New Horizon (0915-4620) 9巻3号 Page309-314(1997.06)
84	1997	高齢者の虐待と支援に関する研究(2) 3県の実態調査から	佐々木明子(山形大学), 高崎絹子, 小野ミツ, 他	保健婦雑誌 (0047-1844)53巻5号 Page383-391(1997.05)
85	1997	ひとりで抱えこまないで 痴呆性高齢者虐待の実態	臼井キミカ・大国美智子他	長寿社会開発センター
86	1997	「高齢者虐待の現状」	荒木乳根子	地域福祉情報 No. 62P7-1
87	1997	高齢者の安全確保に関する調査 研究事業報告書	高崎絹子他	長寿社会開発センター
88	1997	わが国の在宅高齢者虐待に関するソーシャルワーク援助ー高齢者虐待の概念整理を中心にー	山口光治	ソーシャルワーク研究 Vol.22(4)P55-64
89	1997	高齢者虐待の全国実態調査	大国美智子他	長寿社会開発センター

90	1996	米国における老人虐待	宮崎昭夫	四国学院大学論集第90号
91	1996	イギリス社会サービス改革の現状Ⅴーイギリスにおける高齢者虐待対策ー	長寿社会開発センター	
92	1996	イギリス社会サービス改革の現状Ⅳー質向上のための監査精神障害をもつ高齢者施設のケア基準ー	長寿社会開発センター	
93	1996	痴呆症のある高齢者の自己決定を支える	永田久美子	日本老年看護学会第1回学術集会抄録集 P8 1996.11
94	1996	高齢者の人権と老年看護の課題ー埼玉福岡山形県における老人虐待の実態を通じてー	高崎絹子	日本老年看護学会第1回学術集会抄録集 P71996.11
95	1996	抑制のない看護の実践	田中とも江	日本老年看護学会第1回学術集会抄録集 P6. 1996.11
96	1996	老人虐待と支援に関する研究ー埼玉縣市町村保健婦に対する実態調査からー	高崎絹子	東京医科歯科大学医学部保健衛生学科老人看護学老人虐待研究プロジェクト 1996.1
97	1996	深刻化する“老人虐待” 老人虐待の実態調査から	谷口好美(東京医科歯科大学保健衛生), 高崎絹子, 水野敏子	ナーシング・トゥデイ (0912-2974)11巻9号 Page51-54(1996.09)
98	1996	高齢者が自立に至る要因に関する研究	浅田庚子(滋賀県立短期大学), 横田峰子, 横井和美	滋賀県立短期大学学術雑誌 (0371-3385)49号 Page91-95(1996.03)
99	1996	長寿社会開発センター: 高齢者虐待防止シンポジウム(抄録集)	高齢者処遇研究会	
100	1996	高齢者虐待予防と看護支援に関する研究	佐々木明子・高崎絹子他	高齢者虐待共同研究プロジェクト
101	1996	家族病理としての老親虐待とその社会的背景	蔣潤緑	社会問題研究 Vol. 45(2)P97-116
102	1996	老人虐待の発見と介入ーその視点と考え方ー	大塩まゆみ	滋賀文化短期大学研究紀要 No. 6P57-70
103	1996	老人虐待ー米国の動向と課題ー	谷口好美他	看護学雑誌 22098P648-651
104	1996	在宅要高齢者の介護負担と虐待(疑いを含む)に関する調査	津村智恵子臼井キミカ他	大阪シルバーバースメント研究会 P10



105	1996	痴呆性高齢者の虐待と財産管理 を考える	豊島康宏	厚生福祉 P2-5
106	1996	アメリカ高齢者虐待の現状	田中荘司他	高齢者虐待シンポジウム 東京都社会福祉協議会 P6. 1996
107	1995	新しい成年後見制度をめざして 意志能力が十分でない人々の社 会生活を支援するために	野田愛子編	東京都社会福祉協議会東京 精神薄弱者・痴呆性高齢者 権利擁護センター1995.9
108	1995	我が国の高齢者虐待の実態に関 する基礎的研究	田中荘司	長寿社会開発センター世代 間交流による高齢者の社会 参加促進に関する基礎研究 論文・資料集 P64-93
109	1995	シルバーハラスメント	安藤明夫	労働新報社
110	1995	老人の虐待と支援に関する研究 (1) 埼玉県市町村保健婦に対す る実態調査から	高崎絹子(東京医科歯科大学 保 健衛生), 佐々木明子, 谷口好 美, 他	保健婦雑誌 (0047-1844)51 巻 12 号 Page966-977(1995.12)
111	1995	訪問指導を通して「老人虐待」を 考える	青山幹子(板橋区衛生部)	保健婦雑誌 (0047-1844)51 巻 7 号 Page537-539(1995.07)
112	1995	訪問看護を通して「老人虐待」問 題を考える	澤田咲子(訪問看護ステーショ ンけやき)	保健婦雑誌 (0047-1844)51 巻 7 号 Page533-536(1995.07)
113	1995	老人虐待の概念化と在宅ケアの 課題 日本の特徴と支援活動の 方向	高崎絹子(東京医科歯科大学 保 健衛生), 佐々木明子, 谷口好 美	保健婦雑誌 (0047-1844)51 巻 7 号 Page524-532(1995.07)
114	1995	老人虐待の調査実態からみえて きたもの	田中荘司(共栄学園短期大学)	保健婦雑誌 (0047-1844)51 巻 7 号 Page517-523(1995.07)
115	1995	老人虐待をめぐる 米国の事 情を中心に	柄澤昭秀(日本社会事業大学)	保健婦雑誌 (0047-1844)51 巻 7 号 Page511-516(1995.07)
116	1995	福祉施設での人権問題 痴呆性 老人の人権侵害を中心に	雨宮克彦, 雨宮洋子	月刊総合ケア Vol. 5(1)P10-18
117	1995	高齢者虐待調査研究報告	中村雪江	東京都医療社会事業協会社 会対策部高齢者虐待調査研 究委員会
118	1995	老人介護 2 殺人を検証する	武田京子	月刊 地域福祉情報 No. 33P14-17
119	1995	シルバーハラスメント 110 番相 談内容の概況	藪内美智代	
120	1995	高齢者にとって自己決定とは何 か	鈴木信男	月刊総合ケア Vol. 5(1)P19-

121	1995	介護者の2人に1人が虐待を経験：連合の「要介護者を抱える家族」実態調査結果	連合	厚生福祉 P6-10
122	1995	権利擁護ハンドブック	権利擁護センターすてっぷ	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 1995
123	1995	痴呆性高齢者権利擁護相談マニュアル	野田愛子編	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 1995
124	1994	老女はなぜ家族に殺されるのか	武田京子	ミネルヴァ書房
125	1994	高齢社会の成年後見法	新井誠	有斐閣
126	1994	老人虐待～アメリカは老人の虐待にどう取り組んでいるか～	多々良紀夫・二宮加鶴香	筒井書房
127	1994	東京都区部における在宅痴呆老人介護の実態と介護者の負担	斎藤雅彦	老年精神医学雑誌 Vol.15. (2)P187-196
128	1994	イギリスにおける高齢者虐待の現状と課題 ロンドン通信②	市川一宏	社会福祉研究 No. 60P188-192
129	1994	在宅介護老人を介護する高齢者の負担に関する研究	上田照子	日本公衆衛生誌 Vol. 41 (6)P499-506
130	1994	老人虐待と放任 ーその認識の視座ー	大塩まゆみ	滋賀文化短期大学紀要 NO. 4P39-48
131	1994	高齢者の福祉施設における人間関係の調整に係わる総合的研究	田中荘司	高齢者処遇研究会 P88
132	1994	日本の高齢者虐待の実態ー初の試みを終えて	田中荘司	月刊福祉 Vol. 77(10)P102-105
133	1994	わが国における高齢者虐待の発生と福祉援助の課題ー「高齢者処遇研究会」の実態調査からー	萩原清子	月刊 地域福祉情報 No. 30P14-17
134	1993	東京都における在宅痴呆高齢者の現状と課題(第1報)対応困難なケースを中心に	露木敏子(東京都立中部総合精神保健福祉センター)	保健婦雑誌 (0047-1844)49巻1号 Page51-59(1993.01)
135	1993	老年期痴呆患者と人権 老人虐待	清田一民(城南総合病院)	老年精神医学雑誌 (0915-6305)4巻2号 Page161-166(1993.02)
136	1993	在宅要介護老人の介護者における蓄積的疲労徴候と介護環境要因	横山美江	日本看護研究学会雑誌 Vol. 16(3)P23-31
137	1993	障害老人の施設入所に関する介護家族の希望とその関連要因	上田照子	日本公衆衛生誌 Vol. 40(12)P1101-1110

138	1993	在宅痴呆老人の介護負担分析	朝田隆他	精神神経学雑誌 Vol. 95(12)P1001
139	1992	痴呆性老人の在宅介護者の負担感とストレス症状の関係	新名理恵、矢富直美、本間昭	心身医学 Vol. 32(4)P324-329
140	1992	老人虐待	金子善彦(神奈川県立精神医療センター)	地域保健(0385-2229)23 巻 10号 Page8-27(1992. 11)
141	1992	老人虐待への危機介入の1例	徳永雅子(玉川保健所), 文谷裕子	保健婦雑誌 (0047-1844)48 巻12号 Page997-1002(1992. 11)
142	1992	家族の中の暴力 老人虐待への危機介入の1例	徳永雅子(玉川保健所), 文谷裕子	アルコール依存とアディクション (0916-8257)9 巻3号 Page197-202(1992. 09)
143	1992	痴呆性老人の人権に関する研究	小澤勲	長寿科学総合研究 平成3年度研究報告 Vol. 3P304-307
144	1991	Elder Abuse の傾向と対策	宮森正(川崎市立井田病院)	地域医学(0914-4277) 5 巻9号 Page799-803(1991. 09)
145	1991	3 回の緊急手術を行った被虐待老人の一例	神谷圭子(碧南市民病院), 滝和美	エマージェンシー・ナーシング (0915-4213)4 巻5号 Page408-410(1991. 05)
146	1989	家族援助における看護の視点	高崎絹子	看護研究 Vol. 22 (5) P420-437
147	1988	老人虐待	ジョーゼフ J コスタ 中田智恵海	海声社
148	1987	老人虐待	金子善彦	星和書店